

題名：横浜労災病院で原発性アルドステロン症と診断された患者さんへ

当院では、下記の臨床研究を当院倫理委員会の審査を経て病院長の許可のもと行っています。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、あなたの診療情報や検査などで残った検体の下記の研究への利用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして研究に利用させていただきます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用するまたは提供されることを希望されない場合、また研究に関する質問等ございましたら、下記に記載している問合せ先へご連絡下さい。利用を希望されないことが今後の診療に何らかの影響を与えることは一切ありません。

研究課題名 (承認番号)	新規非競合化学発光酵素免疫測定法における原発性アルドステロン症の機能確認検査の病型診断能とカットオフ値の検討について (-)
当院の研究責任者 (所属)	金城 雅樹(内分泌・糖尿病センター)
他の研究機関および 各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	原発性アルドステロン症はアルドステロン過剰による疾患であり、高血圧とは独立して、心血管疾患・心房細動・末期腎不全のリスク上昇が報告されています。本疾患は病型に応じた治療選択が重要であり、アルドステロン産生腫瘍（アルドステロン産生腺腫など）が原因となる場合には副腎摘出術によって治癒または改善が期待できます。一方で、手術適応を見極めるための検査である副腎静脈サンプリングは手技の難易度が高く、全患者さんに一律に施行することが困難であるため、手術に至らない例も少なくないとされています。当院は副腎静脈サンプリングおよび副腎摘出術を積極的に実施しており、当院データを用いた検討は臨床的意義が大きいと考えます。また2021年4月以降、アルドステロン測定法がラジオイムノアッセイから化学発光酵素免疫測定法へ移行したことから、新たな測定系に整合した診断基準の再検討が求められています。そこで本研究では、機能確認検査の結果から、手術で治療可能なアルドステロン産生腫瘍が原因となっている患者さんを推定するための指標を検討し、副腎静脈サンプリングの施行を検討する際の判断材料を提供することを目的とします。
研究の方法 (利用する試料・情報)	【研究の対象】 2022年～2024年に当院内分泌・糖尿病センターに入院した患者さんのうち、原発性アルドステロン症と診断されている患者さん。 【研究の方法】 この研究は、上記の期間に当院内分泌・糖尿病センターに入院または外来を受診された患者さんの病名、身体データ、血液・尿検査データなどを参照させて頂き、解析するものです。そのため、皆様に改めて検査や問診をお願いする

	<p>ことはございません。電子カルテなどから下記のデータなどを収集し、原発性アルドステロン症の機能確認検査の病型診断とカットオフ値について検討します。下記の情報は当院の研究者以外は利用しません。</p> <p>【研究に利用する情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保険病名、入院期間、手術情報 ・年齢、性別、身長、体重、高血圧罹病期間、血圧、内服薬 ・血液・尿検査のデータ(腎機能、血清カリウム、血清コルチゾール、レニン活性、血漿アルドステロン濃度、副腎静脈サンプリングの結果、各種内分泌負荷試験の結果など) <p>研究実施期間：2026年4月～2031年3月</p>
利用する試料・情報の該当期間	2022年～2024年
試料・情報の他の研究機関への提供および提供方法	他の研究機関に提供する予定はありません
個人情報の取り扱い	利用する試料・情報から、氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除いたします。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源(利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	<p>電話：045-474-8111(代表)</p> <p>メールアドレス：kenkyu@yokohamah.johas.go.jp</p> <p>担当者：金城 雅樹 (所属：内分泌・糖尿病センター)</p>
備考	